



TITLE:

渡嘉敷川河口で発見されたオオウナギ(ウナギ目, ウナギ科)の死亡個体

AUTHOR(S):

久保田, 信; 水野, 信彦

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 渡嘉敷川河口で発見されたオオウナギ(ウナギ目, ウナギ科)の死亡個体. 南紀生物 1998, 40(2): 199-200

ISSUE DATE:

1998-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188271>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

南紀生物, 40(2): 199-200, 1998

渡嘉敷川河口で発見されたオオウナギ (ウナギ目, ウナギ科) の死亡個体

久保田 信*・水 野 信 彦**

Shin KUBOTA and Nobuhiko MIZUNO: A dead specimen of *Anguilla marmorata* (Anguilliformes, Anguillidae) found at a river-mouth of the Tokashiki River, Okinawa, Japan

オオウナギ *Anguilla marmorata* QUOY et GAIMARD は全長 220 cm に達するウナギ科 Anguillidae の大型種で、わが国では太平洋側では利根川以西、東シナ海側では長崎県以西の暖流に直面した沿岸河川で見られ、生息地によっては天然記念物に指定されている (多部田, 1989; 浅野, 1985; 宮地・川那部・水野, 1976)。オオウナギは全世界のウナギ類15種中もっとも広分布する熱帯産種で、わが国南部の島嶼では本種のみが生息する河川も多い (多部田, 1989; 林原, 1996など)。

本種の生体は沖縄県下の河川では珍しくないようである (幸地, 1991; 山本私信) が、死亡後それほど時間の経過していない個体に関する報告は多くはないと思われる。今後、この例のような記録が少しでも多く残され、オオウナギの生態が詳しく解明されることを期待し、今回、慶良間列島の渡嘉敷港付近で発見した本種の死亡個体について報告する。

オオウナギの死亡個体 (図1) の記録

全 長 120.4 cm

発見場所 沖縄県渡嘉敷島渡嘉敷川河口の岩礁上

発見日時 1998年5月20日午前7時30分

所 見 死亡個体には傷や食痕がなく、体表の不規則模様も明瞭で、目の白濁がみられないことなどから、死亡後数日も経ているとは思われない

死因についての推察

オオウナギは、一般に河川の中流域や湖底に穴を掘ってすみ、エビ類、魚類、カエル類を摂食し、近縁種のウナギ *Anguilla japonica* TEMMINCK et SCHLEGEL が同一河川に生息する場合は、ウナギよりも上流にすみ分けてい

る (多部田, 1989)。こうした生態と上記の所見、および本個体が比較的大形であることからみて、渡嘉敷川上中流域に棲んでいた本個体が、老衰あるいは病気などの理由で死亡し、河口まで流下され、干潮時に出現した岩礁の上に打ち上げられた可能性が考えられる。別の可能性としては、衰弱した本個体が河口付近まで流されてきて死亡に至り、岩礁に打ち上げられたとも考えられる。一方、この個体には外傷が見られないので、発見直前の夜間の活動時や産卵のため海へ下る際に、何らかの外因性の原因で死亡に至った可能性は低い。解剖していないので、何らかの内因性の原因によって死亡したか否かは不明である。

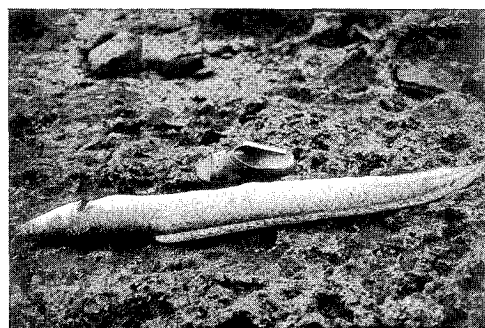


図1 沖縄県慶良間列島渡嘉敷島、渡嘉敷川の河口で発見されたオオウナギの死亡個体 (ぞうり上のスケールは 11 cm)

Fig. 1 A dead specimen of *Anguilla marmorata* found at the mouth of the Tokashiki River, Tokashiki Island, The Kerama Islands, Okinawa Prefecture, Japan (The scale on the sandal is 11 cm in length).

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

** 〒791-0213 愛媛県温泉郡重信町牛淵1885
1885 Ushibuchi, Shigenobu-cho, Onsen-gun, Ehime 791-0213, Japan

付 記

渡嘉敷島ではこれまでオオウナギの生息調査がなされたことはないようであるが、渡嘉敷川の上流ではペットボトルほどの太さの“ウナギ”を見かけることもあるとのことである（渡嘉敷島役場 私信）。今回の例や、同じ慶良間列島に属し、隣接する阿嘉島にもオオウナギが分布している（林原, 1996）ことなどからみて、それらの大形個体もオオウナギである可能性が高い。

謝 辞

貴重な文献をご教示頂いた田名瀬英朋氏、沖縄県下でのオオウナギ生体の観察経験を知らせて下さった山本泰司氏、渡嘉敷川上流で見かけられた大形のウナギ類の情報を下さった渡嘉敷村役場に深謝致します。また、今回の発見の契機を与えて下さった広島大学生物生産学部の大塚 攻博士をはじめ練習船豊潮丸の郷 秋雄氏と中越和光氏および乗組員スタッフ一同に感謝致します。

参 考 文 献

- 浅野博利. 1985 : オオウナギ. *in* 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝弥・吉野哲夫 編, 日本産魚類大図鑑 (初版第2刷). 21, pl. 24, 東海大学出版会, 東京.
- 林原 毅. 1996 : 阿嘉島の淡水域に生息する甲殻類と魚類. みどりいし, 7, 28-30.
- 幸地良仁. 1991 : 沖縄の川魚 (初版). 26-29. 沖縄出版, 沖縄.
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976 : 原色日本淡水魚類図鑑 (全改訂新版). 63-64, pl. 2, 保育社, 大阪.
- 多部田 修. 1989 : オオウナギ. *in* 川那部浩哉・水野信彦 編・監修, 日本の淡水魚 (初版1刷), 50-51, 山と溪谷社, 東京.